

ウランバートル市の印象に残った場所

Улаанбаатар хотын дурсамж дүүрэн газрууд

みなさんこんにちは。 私は滝川市の国際交流員のナンザド・ガンチメグ（メグ）です。 今回はみなさんに自分の生まれ育ったウランバートル市を紹介したいと思います。 どうぞ読んでみてください。

私が生まれた頃ウランバートル市には数少ない大きな道路と車、そしていくつかの有名な建物があっただけでした。 私の記憶に残っていることは家の近くにきれいなセレベ川が流れ、その周辺で 私たちは一日中遊んでいたことです。

ウランバートル市はモンゴル国の首都で、私が生まれた 1985 年に人口は 50 万人しかいなかったのですが、現在は急速に増加して 120 万人にもなり、私のホームタウンは日が経つにつれ、姿を変えています。



Сайн байцгаана уу. Би Нанзадын Ганчимэг, Такикава хотын гадаад харилцааны ажилтан байна. Энэ удаад та бүхэндээ өөрийн төрж өссөн Улаанбаатар хотыг танилцуулахаар бэлтгэлээ. Уншаад үзээрэй.

Намайг төрөх үед Улаанбаатарт цөөхөн том зам, цөөхөн машин, цөөхөн барилга байсан. Миний санахын гэрийн маань ойролцоо урсдаг Сэлбэ голын дэргэд бид өдөржин тоглодог байж. Улаанбаатар бол Монгол улсын нийслэл. Тухайн үе буюу 1985 онд хүн ам 500 000 орчим байсан бол одоо 1 200 000 хүн амтай болсон. Их хот маань өргөжин тэлж өнгө зүсээ өөрчилсөөр.



子どもの頃、よく遊びに行った印象に残っている場所があります。 その中で一番最初に頭に浮かんだのは「スヘバートル広場」です。「スヘバートル」はモンゴルに革命を起こした英雄の名前です。 広場の中央部に彼の像があることからこの名前が付けられたと言われています。 友達と一緒にこの広場でよくローラーブレードをしました。

Хүүхэд байхдаа дандаа очдог байсан дурсамж дүүрэн газрууд бий. Үүнээс хамгийн түрүүнд сэтгэлд буусан нь энэхүү Сүхбаатрын талбай. Сүхбаатар бол Монголд хувьсгалыг авчирсан түүхэн баатар билээ. Талбайн яг голд Сүхбаатрын хөшөө байдгаас талбайг ингэж нэрлэсэн юм. Би найзуудтайгаа роликкоо авч энэ талбай дээр ирээд өдөржин тоглодог байлаа.

子ども達が大好きな場所の一つはサーカス会場です。 私も両親と一緒にここで開催されたすべてのサーカスを観ました。 モンゴルのサーカスだけではなく世界各国のサーカスを観ました。



Хүүхэд бүхний очих дуртай газрын нэг нь цирк. Би ч бас аав ээждээ хөтлүүлэн цирк болгоныг бараг алгасахгүй үздэг байлаа. Монголын циркийг үзэхээс гадна дэлхийн олон орны цирк ирж тоглолтоо хийхэд нь үзнэ.

街の南の方に街全体を見ることができる丘があります。 名前は「ザيسان・トルゴイ」です。 丘の上や周辺にファーストフード店が並び、中にはモンゴルで最もおいしい串焼き肉を売っている店があります。 夜中の 12 時になっても人で賑わっていて、カップル、友達、親戚、兄弟でウランバートル市を眺めながら串焼き肉を食べています。



Эх хотыг чанх дээрээс нь харж болдог өндөрлөг бий. Нэр нь Зайсан толгой. Тэнд түргэн хоолны газрууд байх бөгөөд миний мэдэхийн хамгийн амттай шорлог тэнд л байдаг. Шөнийн 12 цаг болж байсан ч тэнд хөл хөдөлгөөн тасрахгүй. Хосууд, найзууд, ах дүү нараараа очиж Улаанбаатар хотыг тольдонгоо амттай шорлог иднэ.

Уланбаатар市内には各国の飲食店がある他、モンゴルの昔の兵士や遊牧民の調理方法で作った料理を提供するレストランが数多く存在します。例えば、アルタイバーベキュー、b d's、モーデンノマダス等があります。

Улаанбаатар хотод олон орны зоогийн газрууд байхаас гадна Монголын эртний нүүдэлчид болон баатрууд хоолоо бэлтгэн иддэг байсан аргыг орчин үетэй хослуулсан Алтай барбэжю, БД-с, Модэрн Номадс гэх мэт амттай хоолны газрууд бий.

Уланбаатар市内にはこの他多くの人の印象に残っているモンゴルの歴史を語る場所があります。みなさん機会があればぜひ一度行ってみてください。



Эдгээрээс гадна өөр олон хүмүүсийн сэтгэлд хоногшсон, заримдаа Монголын түүхийг өгүүлэх сонирхолтой газрууд бий. Та бүхэн боломж олдвол заавал миний эх оронд очиж үзээрэй.

モンゴルの旧正月「ツアガーンサル（白い月）」～滝川市国際交流員ナンザド・ガン

チメグさん～

モンゴルの旧正月はツアガーンサル（白い月）と呼ばれ、1月下旬～2月中旬ごろにあります。ツアガーンサルから、モンゴル暦の上では春になります。

モンゴル人は昔から家畜を飼って生活する遊牧民族ですので、乳製品が一番豊富な秋の季節に乳製品のお祭りとして祝っていましたが、1206年にチンギスハーンがモンゴル帝国を設立し、お正月を家畜の出産と乳製品や緑が増える頃である春の初月に祝うよう決めました。

お正月になる前に家中の大掃除をしたり、来客用のお土産を用意したりと色々な準備がありますが、その中でもっとも大変なのがお祝い用の料理作りです。お祝い料理はオーツ（羊肉のまる煮）、ポーズ（モンゴル風蒸し餃子）、ヘビンホープ（小麦粉のお菓子）といった料理（写真1、2）ですが、最も手間がかかるのは「ポーズ」（写真2）です。祝日までにたくさんのポーズを作るのですが、1,000個以上のポーズを作る家庭も珍しくありません。というのも、モンゴルでは正月期間には親戚の家などをまわり挨拶する習慣があり、来訪客には必ずポーズをふるまうからです。「白い月」という名のとおり、旧正月の日の食事も白いものが中心です。



写真1 ヘビンホープ（後列左）、オーツ（前列右）

モンゴルではお客さんにお土産を渡すのが旧正月の通例です。旧正月前のデパートやスーパーに行けば、期間限定の特設売り場を見ることができて面白いです。

元日の朝には、今年一年の災いを追い払い、幸運を呼び込む儀式のようなものを行います。これは、自分の家から一定の方角に向かって歩いて戻って来るというものです。歩く方角は生まれた年の干支によって決められているので、人によってちがいます。



写真2 ボーズ

それが終わると、晴れ着に着替え、親や親戚、知人宅へと年齢の順に挨拶回りがはじまります。

正月の挨拶にはしきたりがあります。ハタグ（尊敬や幸福の意をあらわす青い布）を手に持ち、年下の者が年上の者の両腕を下から支えるように持って、「よい新年をお迎えていらっしゃいますか」と言いながら、お互いに頬を近づけます（写真3）。

席に着くと乳茶が出され、最近の近況を尋ね合ったりしながら、テーブルに並ぶ料理をいただきます。ボーズは、お客さんが来てから蒸すので、湯気のたったアツアツのもので出てきます。それから主人の乾杯の音頭にあわせて、ウオッカで乾杯を3回以上は繰り返します。帰る頃には、お腹がぱんぱん、足元ふらふらなんてことも。また、帰り際には、お土産まで配られます。こうして年始の挨拶が一通り終わるわけですが、これで終了ではありません。一軒終わると次の家へ行き、同じように挨拶→乳茶→ボーズ→乾杯が繰り返され、終わるとまた次の家へと挨拶回りが続くのです。ですから、ツアガンサルが終わる頃には、ぐったりという人もいます。



写真3 お正月の挨拶の様子

そうはいつても、ツアガンサルは家族や親戚が集まり、伝統的なしきたりと料理で一年の幸せを願う大切な日です。遠くに暮らす子どもや孫が帰ってきたり、晴れ着を着せてもらった子どもたちがはしゃいでいたり、喜びに溢れています。このようにしてモンゴル国民は春を迎え、季節が厳しい冬から暖かい春へと変わっていくのです。

琴とわたし～滝川市国際交流員ナンザド・ガンチメグさん～



モンゴル国際交流員のガンチメグさん

琴を習い始めてちょうど10ヶ月が経ちました。琴は日本の伝統楽器として日本文化の中で大きな存在を示しています。琴を弾く時、着物を着て弾く場合が多いので、着物と琴を通じて日本文化に触れることができます。

最初は同僚に誘われて琴を習い始めました。それまで私は琴に触ったこともありませんでしたが、今、琴の美しい音色にどンドン心が弾かれています。琴を始めて間もない頃、市民の方から琴をいただき、その優しい気持ちに感謝しながら練習を続けています。

1人で弾くとあまり良い音が出ませんが、先生と一緒に弾くと、ハーモニーが美しく、時間が経つのも忘れてしまいます。毎回先生の優しい指導のもと、琴を弾く時間は私にとって貴重な時間です。ほんの少ししか弾けない時に先生が励まして下さったおかげで、今年の10月14日（日）の三曲会と28日（日）の文化祭に参加することができました。

舞台上上がるのが初めてで、顔が熱くなってしまいましたが、先生がすぐそばにいましたので最後まで弾くことができました。先生と一緒になら10曲以上弾けますが、1人では5曲も弾けないと思います。

実はモンゴルにも琴があって、今年の11月5日（月）に旭川市でモンゴル・日本交流コンサートがありました。そこでモンゴル琴のハーモニーを聴き、初めて感動しました。それまでも、モンゴル琴の演奏は何回も聴いたことがありましたが、音色はそんな



10月28日(日)の文化祭で
琴を演奏するガンチメグさん
(左から2番目)

に気にしていませんでした。それが、日本で琴を習ってから、モンゴル琴を聴いて、改めてモンゴル琴の良さに気が付きました。今回、初めて注意深く聴き、曲の意味を読み取ろうとしました。

私と琴が滝川市でつながらなかつたら、この素晴らしさに気が付かなかったに違いないでしょう。日本でいつまで琴の練習を続けられるか分かりませんが、これからもこの地球のどこかで琴を習い続けたいと思います。

滝川市の新しい国際交流員のご紹介

皆さんこんにちは。

私はモンゴルから参りましたガンチメグと申します。今年で26歳です。日本語を14歳の時から習い始めて、12年間日本語を勉強しています。日本語を習い始めたきっかけは“東京ラブストーリー”と言うドラマです。このドラマがモンゴルで凄く流行したとき、私は「是非この素晴らしい言語を話せるようになりたい」と思い、一生懸命日本語を勉強しました。今になって考えてみると、日本語を勉強して本当に良かったと思います。なぜかと言うと高校生の時に日本語を話すことのできる生徒5人が日本を1ヶ月見学できるチャンスがあり、それに私が参加することができたからです。

また、大学生の時に日本語・日本文化研修生として九州大学に留学するチャンスも得られました。

そして、今回滝川市で国際交流員として勤めることもできました。本当に恵まれた運命ではないでしょうか。



<滝川市についての感想>

滝川市は穏やかな街で、市民の皆さんはとても優しいです。滝川市に着いて車から降りる時、なぜか気持ちがほっとしました。私の務める市役所は素敵な建物で、職場の人たちも親切な方々です。着いた日に辞令交付式があつて、とても緊張していましたが、市長さんは優しく穏やかな方だったので安心しました。

<日本での私の仕事>

滝川市国際課で国際交流員として勤めることになりましたが、一体私はどんな仕事をしているのでしょうか。

皆さんもご存知だと思いますが、第69代横綱白鵬関が滝川市の観光大使になり、モンゴルでお米を栽培する計画を立てています。このことと私の仕事が深く関わりを持っていて、農業の研修を受けに来た研修員の通訳と翻訳をしたり、観光ツアーの企画を立てたりします。一番楽しい仕事は、市民の皆さんにモンゴルの文化と言語を学んで頂くコースを開いたり、学校や保育園を訪問したり、イベントを実施することです。市民の皆さんがモンゴルに興味を持って頂けるように、私もモンゴルの素晴らしいところをたくさん紹介したいと思います。私が国際交流員として働いた結果、モンゴルと滝川市の交流が末永く続き、両国を結ぶ大きな架け橋を作れたら一番うれしいです。また白鵬関が望む農業分野の交流をどんどん進めて行きたいと思います。

皆さん宜しくお願いします。